

二〇一六年五月二五日(二条城参加者一〇名)

唐破風に菊の御紋の夏館	よう子
緑立つ唐門仰ぎつつ潜る	よう子
さやかなる離宮の庭の春惜しむ	よう子
鶴亀の島へかかりし橋涼し	よう子
築山の松のしもにつつじ燃ゆ	わかば
ゆくりなく濠端ここだ夏薊	わかば
風の意のままに揺れゐる茅花かな	わかば
緑なす松の影縫ふ小径かな	わかば
廊めぐるうぐひす張の音涼し	明日香
ハンギングめく石垣の草若葉	明日香
石組みの百景涼し城の庭	明日香
昼暗き黒書院でて目に青葉	小袖
白砂の道結界の芝青む	小袖
広々と武者隠してふ夏座敷	小袖

風薫る二条離宮の松並木	菜々
桃山の金泥涼し障壁画	菜々
曆日の松の百態影涼し	菜々
万緑の限りを尽くす古城かな	ぼんこ
濠の面櫓の影と雲の峰	ぼんこ
漣のかけて濠の面風ひかる	ぼんこ
白靴のいで入り盛ん二条城	満天
書院の間涼し墨書の壁画また	満天
異人みななべてメタボや古都薄暑	満天
咲き満ちて苔庭に映ゆさつきかな	ひかり
遠州の庭の要の滝涼し	ひかり
探幽の松の涼しき黒書院	なおこ

吟行句会みの選

二〇一六年五月二五日(二条城参加者一〇名)